



左側面



正面



背面



彩色状況

人物埴輪 8 (原始機)



左側面



正面



栃木県下野市

かぶとづか

甲塚古墳出土埴輪

甲塚古墳は、墳丘 1 段目に幅の広い平坦面を持つ全長約 80m の帆立貝形前方後円墳で、6 世紀後半に築造されたと考えられます。隣接地には下野国分寺跡が所在しており、下野国分寺跡の史跡整備に伴い平成 16 年に発掘調査をおこないました。

甲塚古墳が位置する栃木県南部は、古墳時代後期の大型古墳がもっとも多く集中している地域と言えます。大型の古墳は南から摩利支天塚古墳 (120m)・琵琶塚古墳 (123m)・甲塚古墳 (80m)・愛宕塚古墳 (78.5m)・山王塚古墳 (72m)・丸塚古墳 (65m)・吾妻古墳 (128m) があります。

これらの古墳の中で丸塚古墳が円墳で、他は前方後円墳です。古墳の築造順番は出土遺物などから摩利支天塚古墳→琵琶塚古墳→吾妻古墳→甲塚古墳→愛宕塚古墳→山王塚古墳→丸塚古墳になります。

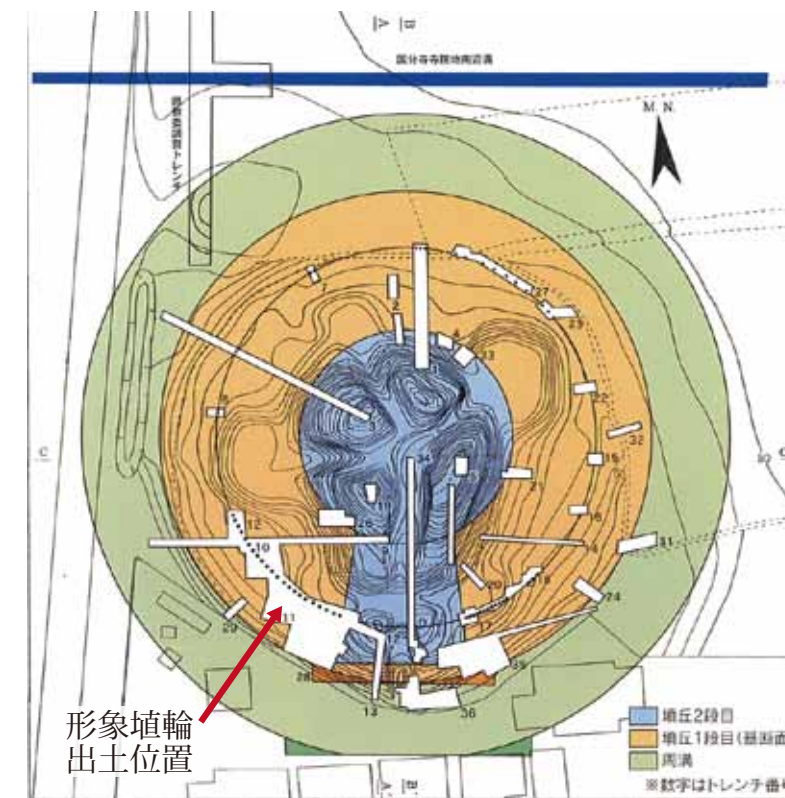
甲塚古墳は調査の結果、墳丘 1 段目の幅約 14m ある平坦面の中心部付近に円筒埴輪が 1 列に廻ることが確認されました。この埴輪列の墳丘西側括れ部付近からは、形象埴輪が復元できるもので 24 基 (機織形 2・馬形 4・盾持ち人 1・人物 17) が出土しました。また、形象埴輪列の前方で石室西側の基壇面からは、埋葬に伴う儀礼時に使用したと考えられる 360 個体以上の土器群が出土しました。

甲塚古墳から出土した埴輪は、全体的に遺存率が高く、埴輪の置かれた位置や方向が埴輪群として判明した栃木県内では初めての事例です。そのうち人物埴輪 7・8 は女性が布を織っている様子をあらわした機織形埴輪です。古墳時代の機織機の木製部材の出土例はありますが、組み上がった状態での形状を示す例が皆無であった地機や原始機について、稼働状態に組んだ構造が明らかになった、日本で最初の事例です。

古墳に設置された埴輪群の性格は、①首長権 (霊) 継承儀礼説や②殯説、③葬列説、④供養・墓前祭祀説、⑤他界・来世表現説など多くの研究成果があります。甲塚古墳の場合は埴輪列の前方で多量の土器群が出土していることから墳丘に並べられた埴輪群を眺めながら被葬者を供養した状況が確認され、被葬者を顕彰するための④供養・墓前祭祀のために設置された状況がうかがえます。この形象埴輪列が何を意味しているのか今後検討をかさねる必要がありますが、新旧 2 種類の機織形埴輪が形象埴輪列の中心付近に配置されることから、機織りが甲塚古墳の被葬者に重要なものであり、この被葬者が機織りに関っていた人物であった可能性が考えられます。また、これらの埴輪群には 4 色 (赤・白・黒・灰) の彩色が施されており、遺存状況も良いため当時の彩色を施した埴輪列を復元することができます。



周辺古墳分布図



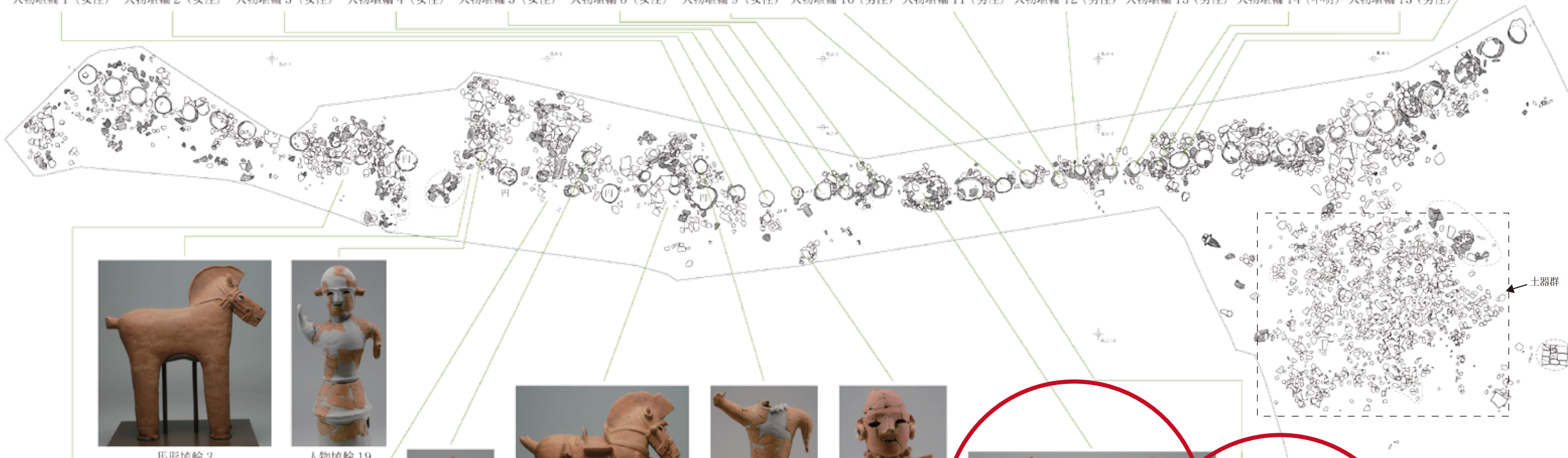
平面図

甲塚古墳出土形象埴輪配置図



人物埴輪 1 (女性) 人物埴輪 2 (女性) 人物埴輪 3 (女性) 人物埴輪 4 (女性) 人物埴輪 5 (女性) 人物埴輪 6 (女性) 人物埴輪 9 (女性) 人物埴輪 10 (男性) 人物埴輪 11 (男性) 人物埴輪 12 (男性) 人物埴輪 13 (男性) 人物埴輪 14 (不明) 人物埴輪 15 (男性)

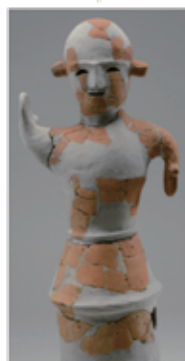
人物埴輪 16 (男性)



土器群



馬形埴輪 3



人物埴輪 19 (馬子 3)



馬形埴輪 4



馬形埴輪 2



人物埴輪 18 (馬子 2)



馬形埴輪 1



人物埴輪 17 (馬子 1)



盾持ち人



人物埴輪 7 (女性)



人物埴輪 8 (女性)

0 2m